

# すみた ふる デイズ

Sumitaful  
Days



#すみたふるデイズ





ひと。  
じかん。  
ふうけい。

少子化。  
遊休農地。  
高齢化。

夜、目を閉じて今日という一日を思い返すとき  
ひとつでもふたつでも  
よかったことが多い方がいい。

さらびやかな出来事の連続よりも  
日常にささやかな幸せがあふれている方がいい。

守ることと切り拓くことの連続で  
自分という人間の存在価値を  
感じられる方がいい。

そんな日々を送ることができる場所。  
誰かの「第二の故郷」になれる場所。

北国 岩手県の小さな町、住田町。

ここに暮らす方々の  
それぞれの「すみたふるデイズ」をご紹介します。

※すみたふるデイズ…造語。住田「らしさ」が詰まっている日々。



**泉田ファミリー**  
いずみたファミリー

Jターン  
40代・岩手県/東京都出身

Izumita Family



子どもの頃の住田の記憶を、  
今、我が子に  
体験させています。

**泉田ファミリープロフィール**

**泉田 洋(いずみた ひろし)さん**

40代。岩手県出身。父親が銀行員で転勤族だったこともあり、幼い頃から様々な土地で生活をしてきた。2017年4月 東京で暮らしていた一家全員で住田町に移住。

**泉田 智美(いずみた ともみ)さん**

40代。東京都出身。東京に住んでいた頃は保育士の仕事に就いていた。今回の移住を機に、初めて東京を離れて暮らすことに。

**泉田 庵人(いずみた あんり)くん**

小学5年生。東京にいる頃からサッカーをしていて、現在は隣の大船渡市のサッカークラブチームに所属。



3

**住田町に移住をしたきっかけは??**

洋さん▶父が3度、倒れたことが一番の理由です。長男だし、親のそばにいないといけないなど。父が倒れてからずっと移住を考えてはいましたが、そのまま東京にいると子どもの受験の準備を行う時期だったので、4年生になるタイミングで決意しました。  
智美さん▶まさか本当に移住するとは思っていませんでした(笑)けれど、子どものことを考えた時に、このタイミングしかないと思いました。

**泉田さんのお仕事を教えてください。**

洋さん▶20年程前から、個人事業主で服飾関連のネットショップを運営しています。インターネット環境が整っていれば続けられる仕事です。仕入は少し大変になったけど(笑)  
智美さん▶東京にいた頃は保育士をしていました。住田町に住んで1年間は、この土地に慣れることを優先して専業

主婦でしたが、2018年4月からは大船渡市総合福祉センターで働いています。

**住田町での暮らしは2年目ですね。不便なことはありますか??**

洋さん▶それがそんなにないんです(笑) 田舎暮らしはこういうものだって思っているのです。  
智美さん▶病院に苦労しています。来たばかりの頃、具合が悪い子どもを30分以上かけて大きな病院に連れて行くことが信じられませんでした。また、子どもの部活動の幅が狭いことです。人数が少ないので仕方がないのかもしれませんが、選択肢がないということは子どもにとって可能性を狭めることに繋がりがかねないので。  
庵人くん▶移動時間が長いこと! 週に2回以上サッカーで大船渡に通ってるけど、往復で1時間以上かかるんだよ。移動の車の中で宿題をしようと思ったこともあったけど、車酔いしちゃうから結局出来なくて。小学校にも中学校にもサッカー部がないけど、部活は絶対入らなきゃいけないみたいだから今から悩んでるんだ。

**少子化が進んでいるからこそ、一人一人の子どもの成長や可能性に向き合える環境であってほしいですね。住田町に移住してきて、良かったと思うことはありますか??**

庵人くん▶来たばかりの頃、見ず知らずの僕のことを、町のみんが覚えてくれているのにはびっくりした。塾帰りに寄るまち家では、みんながいつも「おかえり」と声をかけてくれるのが嬉しい!  
智美さん▶子どもの通学路が見えることや、地域の皆さんが見守ってくれているという安心感はずごくあります。

また、大船渡への通勤自体が森林浴です。景色が四季を通じて変わることや、わざわざ観光名所に行かなくても家の近所で絶景を味わえることは最高の贅沢です。

庵人くん▶春に巣を作りにくるツバメもかわいいよね! 冬には、家の裏の気仙川に来る白鳥に、朝ご飯を食べ終わったあととか気軽に餌をあげにいけることも楽しい。  
洋さん▶自分が子どもの頃、父の実家であるこの家で過ごした住田の時間がとても楽しかった記憶があるんです。その暮らしを自分の子どもにも体験させたいとずっと考えていました。今、こうして体験させることができるととても嬉しいです。

**東京から移住して来た皆さんだからこそ感じる、住田町の暮らしについて教えてください。**

洋さん▶今年、役場の起業奨励金を申請して、実店舗をオープンさせる予定です。実はこんな便利な制度があるというのには、意外と知られていないので、もっとPRすればいいと思います。  
智美さん▶田舎で暮らしたいと思っている人って、東京には多いと思うんです。でも移住ってそう簡単にできるものじゃない。私たち家族は、毎年、お盆やお正月に遊びに来ていたので、どういう地域でどんなご近所さんがいるか、大体はわかっていました。けれど単身で入ってくる人はそんなのわからないですよね。だからこそ、移住したらどんなサポートが受けられるか、どんなコミュニティがあるか、どんなシステムがあるか等が分かる仕組みが整うといいと思います。  
庵人くん▶自然が大好きだし、人も優しいし、僕は100%楽しい小学校生活を過ごしています!!



いとこ同士、毎日豊かな自然の中で遊んでいます



家の裏の気仙川で泳ぐことも出来ます



4





思いつくと、実現したくなる。  
プレイヤーが少ないから、挑戦しやすいのかも。

すみたふるデイズ Sumitaful Days **case#2**  
**奈良 朋彦**  
 ならともひこ  
**二地域居住**  
 40代・神奈川出身

## 奈良さんプロフィール

40代。神奈川出身。一般社団法人邑サポート代表理事。幼少期を広島県で過ごし、その後、横浜に引っ越す。2011年5月から住田町に関わり、同年7月から本格的に神奈川県海老名と住田町の二地域居住を開始する。  
 【一般社団法人邑サポート】  
 2014年11月に法人化。東京工業大学の同級生や研究室の仲間4人で設立。全員が二地域居住者。

## 種山ヶ原

宮沢賢治も愛した種山ヶ原が大好きです。何もない草原で一人で星を見たり物思いこぼけたり出来ます。新緑の季節が一番おすすめ！東京にいる時は、涼しくなる秋が好きだったけど、住田町に来てからは、短い夏を楽しまなくちゃ！と初夏の時期が好きになりました。

What's your Sumitaful things?

## 住田町に関わりをもったきっかけは？

2011年3月11日に起こった東日本大震災がきっかけです。以前国内で起こった災害の際に何もできなかった悔しさから、コミュニティ形成と防災関連の仕事に就いていました。東日本大震災発災時、まずは現場を知らないといけないと思い、2011年7月に、同じ大学の友人3人と邑サポートを結成しました。始めは3ヶ月の現地調査だと思いき、公共施設を借りたり、既に災害支援に入っていた団体のトレーラーハウスに御世話になったりしていました。仮設住宅が建ち、町内に3つある仮設住宅団地に支援員を置き、コミュニティをつくり、基盤作りのサポートをしていましたが、自分たちで決めた3ヶ月が経とうとする頃、町役場の方からある提案を頂きました。内閣府の専門家派遣制度というものを活用して、もう少し町にいてくれないかというものでした。その後様々な制度を活用させて頂きながら町に関わり続け、2014年に邑サポートを正式に法人化しました。

## 奈良さんの今の仕事を教えてもらえますか？

一般社団法人邑サポートの代表理事をしています。仮設住宅のコミュニティ支援を軸として、町の様々なコミュニティ支援・形成に携わせて頂いています。町内に20以上ある異なる団体同士が交わる「異団体交流会」のコーディネートや、高齢化率4割を超える町内の高齢者の見守りと認知症予防を兼ねた「よりあいカフェ」の運営、町内の歴史とサイン（標識等）を結びつけるデザイン会議等のコーディネート業務を行っています。  
 また、町に来る前から関わりのある、東京都江東区の水辺に親しむ会の事務局をしています。



## マルチな仕事を抱えている奈良さんは普段、どこで仕事をすることが多いですか？

町での拠点として、邑サポートで一軒家を借りています。一人で出来るような事務作業はそこで行うことが多いですが、町での仕事は基本的には人の顔を見て進めることが多いので、パン

コ片手に地区公民館や役場、相手が畑にいれば長靴を履いて行って、一緒に農作業を行うこともあります。

## ネット環境があればどこでも仕事が出来るとはよく言いますが、農作業を手伝うことも仕事のうちなのですね(笑)。そんな奈良さんにとって二地域居住ってなんですか？

東日本大震災後に増えた、新しい生活の形だと思っています。僕は二つの場所で活動する、仕事をする、というのが二地域居住だと思っているので、必ずしも居を構えなくてはいいとは思っていません。

## 今は月の半分以上を町で過ごしていると思うのですが、町の暮らしはどうですか？

学びの場だと思っています。仮設住宅や高齢者に関わる仕事をしていて、いつ自分に降りかかってもおかしくない問題なので、サポートする仕事をしながらも、自分にとっては今後の自分の人生の予習をしているような感じです。  
 夕方に商店街で会ったお母さんに、晩ご飯の予定を聞かれそのまま御馳走になったり、平日の仕事終わりに唐突にバーベキューに誘われたり、一度距離が縮まればとことん仲良くしてくれる、そんな優しい町の人々に魅力を感じています。

## 町での時間の流れ方はどうですか？

東京では、仕事と家の往復だけで一日があっという間に終わっていましたが、地域の為の時間が発生するのが住田ならではの時間です。また、その時間が、町で暮らしていく上で一番大事な時間だと思いますし、何気ない日常が大切だなと感じられることが多いです。

## 最後に、奈良さんだからこそ住田町で出来ていることってなんだと思いますか？

音楽かなあ。学生時代、本気で音楽をやっていたその後、しばらくやめていたけど、まさか住田町に来てからまた本格的に音楽をやるなんて思っていなかったんです。町の若者たちが「音楽で地元を盛り上げたい」と立ち上げた音楽サークルに関わるようになって、今では町のお祭りやイベントにも出演したり、CDを製作したりしています。そんな遊びみたいなことに本気で取り組める仲間に出会えたことも住田町での財産です。



## people next door 類は友を呼ぶ!? 奈良さんのそばの、こんな人たち。



### 田畑 耕太郎・美希子夫妻

田畑 耕太郎(たはた こうたろう)  
 30代。秋田県出身。  
 2015年4月から住田町に移住。住田町役場建設課の職員として勤務の傍ら、一般社団法人SUMICAの理事を勤める。

田畑 美希子(たはた みきこ)  
 30代。神奈川出身。  
 株式会社ベストインクラスプロデューサー 勤務。  
 2011年、東京工業大学の先輩である(一社)邑サポートのメンバーと共に住田町での活動を行ったのが住田町に関わり始めたきっかけ。

### 2人のなれ初めと今。

耕太郎さんが、学生の時に訪れた住田町でのプロジェクトのコーディネートを(一社)邑サポートが担当していたことから出会う。出会いから約4年経った2018年に交際を開始した2人は、同年12月に入籍。美希子さんが、耕太郎さんの暮らす住田町に住民票を移し、2019年に入ってからは月2回、金曜日は住田町で東京の仕事のリモートワークに挑戦中。岩手県への1ターン者である耕太郎さんと、東日本大震災後、神奈川県と住田町の二地域居住を続けていた美希子さん。遠距離結婚という、今ではそう珍しくはない夫婦の形を選んだ2人は、月に4〜5回の逢瀬を常に新鮮な気持ちで楽しんでいる、周囲からも愛される素直なご夫婦です。



**安藤 貴洋**  
あんどう たかひろ

関係人口  
30代・愛知県出身



ここ数年、  
新年を迎えるのは住田町です。

### 安藤さんプロフィール

30代。愛知県岡崎市出身。農林水産省総合職。現在、岩手県宮城県福島県の担当として復興庁に出向中。

大好きなお米に関する一粒万倍日に、どうしてもここで入籍をしたいと、お二人で住田町に「帰ってきて」、2017年7月に入籍されました。

お相手は、東京で知り合った東京都出身の祥子さん。その3ヶ月後の10月には、住田町で「すみたの手づくり結婚式」を挙げられました。準備に50人以上の町民が関わり、式は盛大かつ厳かに執り行われました。地元新聞紙に取り上げられたり、町のケーブルテレビでは特集が組まれたり、関係人口の枠に留まらない、安藤さんの住田愛あつての出来事でした。



### 住田町に関わりをもったきっかけは？

入省2年目で、全国各地の農家さんや漁家さんの元に30日間派遣される、農村派遣研修がきっかけです。「課題が多く、小規模ながら伝統的な農業を勉強出来る」という僕の希望に対して、マッチングされたのが住田町の照美さん（ホームステイ先の農家）のところででした。

**全国にある数多くの農家・漁家の中から偶然住田町に来ることになったとは、ご縁ですね。**  
**住田町との関わりで、安藤さんご自身の中で何か変化はありましたか？**

2015年の10月から1ヶ月間、照美さんのところにお世話になったのですが、滞在期間中は、ホームステイ先だけではなく町の人みんなに本当によくしてもらいました。それからは年に6、7回は住田町に遊びにきていますし、地区のお祭りには必ず参加しています。ここ数年、新年を迎えるのは実家ではなく、住田町です（笑）もう遊びにくるという感覚ではなく、「帰ってくる」感じです。住田に関わるようになってから、気持ちがおおらかになったと感じています。例えば、通勤途中の電車が一本くらい遅れてもイライラしなくなったとかね。住田に最初に来たときに、住田町の方々のおおらかさ、器の大きさ、懐の深さに憧れたのを今でも覚えています。

**安藤さんのお話から、ご実家以上に住田町を故郷だと思っている感じが伝わってきます。そんな住田町で経験した初めてのことはありますか？**

昔、教科書で習ったような昭和の暮らしを体験させてもらっています。手づくり結婚式を地元の方々に挙げていただいたり、地元のお祭りに参加して着物を着て踊ったり。鹿狩りに付いていかせてもらったり、火縄銃鉄砲隊の装備を体験したこともありました。本当にこんな豊かな生活が今でも実在するんだといつも感動しています。それと、ご近所付き合いの深さには驚きました。家に鍵をかけないのは当たり前、玄関を開けて隣のお母さんが座って帰りを待っていたり、玄関先に誰からかはわからないけど野菜が置かれていたり（笑）町内を歩いていると、全然知らない人から「すみたテレビ見たいよ」と話しかけられたり、「おかえり〜」と声をかけられたり。実の親以外からおかえりと言われたことには、びっくりしたけどそれ以上にあたたかさを感じました。

**安藤さんの住田町への関わり方は、二地域居住でもなく移住でもない、「関係人口」的な印象を受けます。そんな安藤さんから見ると、住田町への関わりや移住することへのハードルは、どのように下げることができると考えますか？**

住田町って、少ないながらも生活インフラは整っているんですよ。ガン

リンスタンドやコンビニ、ドラッグストア、スーパー、飲食店。そうすると、「仕事」がとても重要になってくると思います。職業の選択肢がどれくらいあって、実際に暮らしている方々がどんな仕事をして生計をたてているか。それが分かるようなものがあると、暮らしのイメージがし易いと思います。「今いるところよりも居心地がいい場所を選びたい」というのは人間誰しもが持っている当たり前の欲求です。その欲求を満たせるかどうかは、情報量に比例すると思っています。「がっつり繋がりを作りましょう」よりも、ささいなきっかけでいいので、住田町の人と継続的に関わりをもったり友だちになれる場があるといいと思います。

**町外の方が気軽に関わられるように、住田町に住んでいる方々が気張りすぎないというののポイントもありませんね。最後に、安藤さんのように住田町に関わるコツはありますか？**

本当に優しい人ばかりなので、僕が特別何かしているってことはないんですが…好き嫌いせずにたくさん食べるってことくらいですかね（笑）住田の方々の潜在的なおもてなし精神は本当にすごいです。一度おいしいと言ったものは必ず覚えてくれていて、次会うときには食べきれないくらい用意してくださっている。それを遠慮せずに全部平らげることで、自分の住田に対する感謝の気持ちを伝えているつもりです（笑）

### people next door こんな関係人口の形もあります。



#### 伯楽 -hakuraku-

代表の仁田さんを中心とした若手クリエイター集団。「才能を振り起こす」をビジョンに掲げ、住田町という大きな遊び場で映画撮影・上映を中心にライブイベントやラジオ、子どもたちと一緒に宿題をしたりと継続的に活動をするために立ち上がった組織。

(代表)仁田 直人(にった なおと)  
20代。奈良県出身。俳優。2018年7月に初めて住田町を訪れ、町の魅力に引き込まれる。  
(副代表)岡部 健太(おかべ けんた)  
20代。静岡県出身。映像クリエイター。

#### 伯楽 -hakuraku- と住田町

(一社)SUMICAの菅原さんと大学で学交のあった仁田さんと岡部さん。2018年2月に住田町に移住した菅原さんが仕事で上京するタイミングで、再会。菅原さんの話で住田町の自然豊かな様子や人を思い浮かべ、一度自分たちの目で確かめに行きたいと7月の来町を決定。「ここで映画を撮りたい」と直感し、メンバー9名を集め、8月に1週間住田町に滞在し、約40分の短編映画を撮影。同年冬には、町のまち家世田米駅蔵ギャラリーで「ある夏のできごと」を上映。2019年春にも、次回作を住田町で撮影予定。





すみたふるデイズ Sumitafuru Days **case#4**  
**平林 慧遠**  
 ひらばやし えおん  
 地域おこし協力隊  
 30代・東京都出身

## 平林さんプロフィール

30代。東京都出身。下有住地区地域おこし協力隊員。東京で育ち、岩手大学農学部森林科学科に進学。2008年岩手県庁に入庁し、気仙管内（大船渡市・陸前高田市・住田町の二市一町）の林業支援を8年行った後、2017年4月から現在の職に就く。2020年3月末に任期終了予定。

大学時代の同級生と結婚。奥様のご実家が町内の下有住地区。二児の父。

## 住田町での暮らしは楽しいですか？

住田に住むまでは経験したことなかったご近所付き合いのおかげで、子どもの面倒をみてもらったり、農業機械を貸してもらったりとありがたいことが多い！猟友会に所属して、週末に狩りに行くことがリフレッシュ法です。

生の野菜をたくさん食べてみたい



平林さんが一番自信のある野菜は？

May I ask you some questions?

新しく来た人を  
受け入れる懐の深い人が、  
住田町には、  
たくさんいます。

## 住田町に移住したきっかけは？

実は学生の頃、林業の勉強で、妻の実家に御世話になったことがあって。元々、ゆくゆくは農業や林業で生きていきたいと思っていましたが、東日本大震災を経験して、自分で生業を起こしたいとはっきり思ったんですね。県庁職員を経験したことで、より現場の仕事に挑戦したいと思いました。住田町の地域おこし協力隊員の募集を見たときに、これは自分にピッタリだと思い、迷いなく応募しました。

## 県職員を辞めて地域おこし協力隊員に挑戦すると決めるとき、家族や周囲の反応はどうでしたか？

この話をすると必ずと言っていい程「もったいない」と言われますね（笑）でも、自立してそれで食べていけるのであれば、自ら作っていく仕事をしたいという気持ちを優先しました。

## 慧遠さんの今の仕事を教えてください。

下有住地区の地域おこし協力隊員をしています。協力隊としての活動は、具体的には2つあります。ひとつ目は、協力隊のミッションでもある、遊休農地の活用です。実際に農地を借りて農業を行っています。ふたつ目は、地区公民館活動のサポートです。公民館行事の事務局をしたり、お手伝いをしています。週末には、嫁の実家の農林業の手伝いをしています。今後は林業についても積極的に関わりを持ちたいと考えていて、木を育てたり山を管理す

るだけではなく、林業に関わる人材の育成にも挑戦するつもりです。

## 慧遠さんが元々やりたかったことに対して、地域おこし協力隊員の任期中にどんな近づいている感じですか？移住してもうすぐ3年目を迎えようとする慧遠さんから見ると、住田町での暮らしはどうですか？

子どもがいるので、やはり子育て環境については気になります。住田町では、地域の方々が自然に子どもを見守ってくれるシステムが確立していますね。地域で子どもを育てようという意識が強いように感じます。また、田舎ですが、子どもが楽しめるようなイベントや行事がたくさんあるのは嬉しいですね。その反面、高齢者向けの施策は充実していますが、子育て世代向けの対策はまだ少ないのではないかと感じています。僕の住んでいる下有住地区には、学童クラブがありません。地域で子どもを育てようという意識があっても毎日は続きません。両親が共働きをしている世代にとっては大変です。また、少子化の影響で、子ども達同士、常に会う顔ぶれが変わらないのは問題な気がしています。基本的には保育園から中学校まで各学年ひとクラスしかなく、義務教育の9年間ずっと同じメンツ。この状況が子どもに与える影響は少なくないと思います。

## 慧遠さんが感じる課題は、お子さんをもつ世代にとっては大きな問題ですね。全国の例にもれず住田町の人口

は、減少の一途をたどっています。慧遠さんは、移住者についてどう思いますか？

それはもちろん、増やした方がいいと思います。何もしなかったら減っていくだけなので。住田町には「新しく来た人を受け入れる」ことが出来る懐の深い人がたくさんいます。また、最近出て来た、住田町と関わりを持ち続けられる「関係人口」を増やすのもとてもいいと思います。

## 最後に、2020年3月末で地域おこし協力隊員の任期が終了予定の慧遠さん。今後の抱負を聞かせて下さい。

農林業でしっかりと生計をたてていきます。それが一番の目標です。また、自分も移住者なので、移住してくる方々の気持ちや必要なモノやコトが分かります。ゆくゆくは、移住者のサポートもしていきたいと考えています。



## people next door

類は友を呼ぶ!? 平林さんのそばの、こんな人たち。



## 吉田 正平さん・早見 勇一さん

(中央) 吉田 正平 (よしだしょうへい)

60代。住田町出身。吉田樹苗代表。昭和30年から3世代に渡り経営をしている。現在、家族4~5人の他に、地元雇用を数名生み出している。今後の林業の将来を見据え、普及啓発や後継者の育成にも積極的に取り組んでいる。慧遠さんの義父。

(右) 早見 勇一 (はやみ ゆういち)

30代。東京都出身。2018年から住田町に移住。東京で営業の仕事や店舗経営を経験した後、海外で1年間のワーキングホリデーや沖縄で観光業に従事。一次産業に挑戦したいと思っていた矢先、母親の同級生である正平さんと出会い、住田町への移住を決意。

## 移住1年生!早見さんから見た住田町

みんなとってもいい人ばかりです。ソトモノの自分のことを親身になって考えてくれるし、僕みたい在一次産業に携わりたい思いをしっかりと叶えられる環境だと思います。今は、30年来の友人である幼なじみも住田町に移住して、一軒家を借りてシェアハウスをしています。早く一人前になって、正平さんに仕事を任せられるやつだと思ってもらえるように頑張ります!



**大村 圭**  
おおむら けい

移住・起業  
40代・千葉県出身



Kei Omura

なんだか、宮沢賢治の  
聞こえたような  
気がしたんですよ。

### 大村さんプロフィール

40代。千葉県出身。2015年住田町で木工の玩具や家具づくりを主とした「アトリエトリア」を起業。2011年の東日本大震災後、気仙管内に当時4人だった家族で移住。大船渡市内の家具製作所で勤務後、2013年から住田町世田米の古民家で暮らし始め、日々セルフリノベーションを進めている。三味線奏者としても多彩な演奏経験を持ち、現在も「楽珍一座」「DeerBear88」として様々なイベントに出演、好評を博している。現在は5人家族。三児の父。

お邪魔する度に、  
家がどんどん素敵に変化していきますよね。  
次は何を作る予定ですか？

(妻・恵世さん) 今ね、五右衛門風呂探してるんです。今まで薪を火で焼くお風呂だったんですけど年末に壊れちゃって。もう製造中止しているお風呂で修理も出来なくて。だから今、灯油のお風呂なんです。

(圭さん) 灯油の風呂になってから家族のテンションがだだ下がりです(笑) それまで新割りの手伝いもしっかりやってなかったのにね(笑) 次女なんてわんわん泣いちゃって。だから今は、五右衛門風呂を探して来て作ってあげようと思ってるんです。

May I ask you  
some questions?

### 住田町に移住したきっかけは？

東日本大震災直後、嫁と2人で気仙管内の避難所を回って、民謡を歌ったりしていたんですよ。元々、田舎暮らしっていいよね、憧れるよねと話していましたが、避難所を回っている間にその思いがどんどん強くなっていきました。はじめは、大船渡で知り合いになった方から「空き家あるよ」と声をかけてもらったことがきっかけで大船渡に一家で移住しました。けれど、自分たちとしてはもっともって田舎の生活してみたかったです。そんな時、避難所巡りばかりで満足に遊んでやれなかった長女のクエストで、種山にキャンプに行っただんです。住田の自然の素晴らしさを感じました。それと…なんだか宮沢賢治の声が聞こえたような気がしたんですよ(笑)。それで住田町に住むことを決めました。



大村さんの今の仕事を教えてください。

2015年、住田町の起業奨励金を受けて起業しました。普段は、町の指定管理を受けている木工館で、今まであまり利用されてこなかった機械のメンテナンスをしながら、県産材を使った木工品作りを行っています。また、2017年グッドデザイン賞をとった、町の取組みである「木いくプロジェクト」で、新生児の誕生祝の玩具や新成人に贈呈する木製カードケースを作っています。今のところ、受注は広がっているのですが、もっともって家具を作っていきたいですし、住田町で、ものづくりが産業として自立できるようにしたいと思っています。

### 住田町でなら、大村さんのような生き方が出来るという、ロールモデルにな

るといいですね。ご家族で住田町に移住されたわけですが、住田での暮らしはどうですか？

新しいことにチャレンジ出来そうな町だと感じています。今まで触れ合ったことのないカテゴリーの人たちの中で過ごすのもとても新鮮です。自分の常識が当たり前じゃないということが、日々の生活の中で分かるのは面白いですよ。東京にいたら暗黙の了解で通るようなところが、住田だとそうはいかない。しっかり言葉にして伝えないと伝わらない。そんなところが好きです。時間の使い方も独特です。会議があると聞いて行ってみると、みんなぞろぞろ集まって来て近況報告してひとしきり話したら解散(笑) もちろん全部が全部そうではないけど、そんな贅沢な時間の使い方が出来るのも、住

田の良さかな。子ども達にとっても最高の自然環境の中で暮らせていると思います。ただ、病院は欲しい。一番下の子が生まれたばかりの頃は、食べ物のアレルギーが結構あったんです。毎回30分以上かけて隣の病院に行くのはしんどかったですね。

高齢者も多い住田町では、町内に総合病院がないというのは大きな課題ですね。最後に、2019年の大村さんの抱負を教えてください。

今年のテーマは「展開」です。家具づくりの仕事はもちろんですが、飯を食べる位、好きな音楽が出来たらいいとか、家の製作途中のツリーハウスをちゃんと完成させたいとかね(笑)



### 2017年グッドデザイン賞受賞「すみた・木いくプロジェクト」

2015年から、町の取り組みとして進めてきた「すみた・木いくプロジェクト」。大村さんもプロジェクトメンバーの一員です。今までに、離乳食用の木製スプーンとケースのセットと木製の玩具を贈る新生児誕生記念品贈呈事業「はぐもっく」や、廃校となった校舎の階段材を使った木製カードケースの製作を手がけてきました。その取り組みは、2017年グッドデザイン賞を受賞しました。「森林・林業日本一の町づくり」をスローガンに掲げる住田町らしい取り組みです。





kerasse 行事カレンダー

- 春 まち家世田米駅感謝祭  
収穫体験
- 夏 星空レストラン  
神田葡萄園リアスワインとくずまきワインを楽しむ会
- 秋 収穫体験  
収穫祭農家ディナー
- 冬 スイーツバイキング  
ビール会 新酒を味わう会

その他にも、近隣市町村のブルワリーやワイナリー、酒蔵の方を呼んでのイベントや、お客様からの要望に合わせて様々なイベントを実施しています。

あがらっせ。  
おいしい住田を、



すみたふるデイズ Sumitaful Days **case#6**  
**kerasse**  
 けらっせ

住民交流拠点施設  
「まち家世田米駅」内  
 地産地消レストラン



スタッフプロフィール

菅野 悠太(かんの ゆうた)さん

30代。住田町出身。県立住田高校を卒業後、盛岡調理師専門学校に進学。

2015年11月住田町の「食いくプロジェクト」専門の地域おこし協力隊員としてUターン。食で地元を盛り上げたいという想いを抱き、2016年4月からは住民交流拠点施設「まち家 世田米駅」(以下、まち家)内の「すみたのだいどころkerasse」でシェフとしてメニュー開発や料理に腕を振るう。2018年10月の任期満了後は、同施設の指定管理団体である(一社)SUMICAに就職。

【一言コメント】

仲間が増えることはいいことです。ただ、やみくもに増やすのではなくやりたいことを実現できる場所として住田町があって、その為に、移住したり帰ってきたりする人が増えればいいと思っています。

菅野 佳奈子(かんの かなこ)さん

30代。岩手県陸前高田市出身。短大卒業後、デザインの仕事に就くため、上京。

東日本大震災をきっかけに、2013年9月に岩手県に帰郷。現在は、kerasseでホールと厨房の仕事をこなしながら、得意分野である手書きのかわいいイラストを使ったチラシやメニュー表を手がける。

【一言コメント】

将来、自分のお店を持つためにここで吸収できること、学べること、試してみたいことをどんどんやっていきたいと思っています。今までの経験を活かした「アクセサリー作りのワークショップ」と「kerasseランチ」のコラボレーション企画は自分だから出来ることだし、お客様とスタッフの距離が近く、あたたかさを感じるのがこのいいところです。

佐藤 友成(さとうともなり)さん

30代。岩手県北上市出身。大学進学と共に、一度は岩手を離れるが、就職を機に岩手県にUターン。薬剤師として働く過去を持ちながら、好奇心旺盛な性格から、2018年9月に飲食と地域活性化を実現しているまち家に興味を持ち、kerasseでの挑戦を決める。住田町に住民票を移し、町営住宅に暮らす。

【一言コメント】

町の人が顔を覚えてくれたり、気軽に声をかけてくれるのは、すごく心地いいです。先日自分が実施した、前職の知識である「薬」と今の職場の「kerasseでの食事」を掛け合わせたイベントは、お客様のニーズがどこにあるかを知るための企画です。単なる飲食提供に留まらず、様々な経験が出来るのがこの魅力です。







How  
Sunlitful!  
すみたふる  
スナップ



4年に1度のお祭り。  
地区の団結の賜物。

あずきだよー





# Data Sheet of SUMITA

## 住田町の基本情報

■人口 5,485人〔2019.2月末現在〕  
(男性2,662人/女性2,823人/外国人94人/世帯数2,162帯)

■鹿の数 7,000～11,000頭

■面積 334.84km<sup>2</sup>

■森林面積 301.04km<sup>2</sup> (町面積の約9割)

■町の花 アツモリソウ

■年間平均気温 約10℃

■積雪 北部20cm 南部10～15cm

■医療機関

住田町地域診療センターをはじめ、歯科医院が2軒あります。  
また、ICTを活用した「未来かなえネット」では町及び近隣2市内にある医療関係施設等が連携体制を構築しています。

■保育・学校

役場のある住田町中心部を含む世田米と、北部地域の中心である上有住それぞれに、保育園、小学校、中学校が1つずつ置かれています。

また、町の支援で、給食の無償提供や、通学費用の一部負担がある、県立住田高校があります。

■年間イベント

春 五葉山山開き・BBQ開き

夏 鮎釣り解禁・KESEN ROCK FESTIVAL

秋 収穫祭・町民運動会

冬 餅つき・水しぎ

## 【住田町の交通情報】

〈鉄道+バス〉

水沢江刺駅 → 車で約45分

一ノ関駅 → 陸前高田駅 →

岩手県交通 陸前高田住田線 世田米駅前下車 3時間30分

新花巻駅 → 上有住駅 → 車で約30分

〈高速バス(岩手県交通 大船渡―盛岡線)〉

盛岡駅 → 世田米駅前下車 2時間34分

※高速道経由は1時間43分

〈飛行機〉

いわて花巻空港 → 車で約1時間

## 住田町ならではの施策

■住田町起業奨励金

町内で新たな事業を創出し、計画的に起業をはかる事業者に対し、最長5年に渡り、年間上限150万円を支給する制度。奨励金の対象経費の中には、事業拠点費や生活費等、実際に起業する際に必要となる経費が含まれている。

【活用事例】

現役の地域おこし協力隊員を含む3名の住田町民が「今までにない切り口で、住田町が持つ魅力を伝える」をコンセプトに、2017年合同会社HUBを設立。



■住田町狩猟免許等取得補助金

町内における有害鳥獣による農林業への被害及び人的被害を防止するため、有害鳥獣の捕獲に従事しようとする者に対して、当該経費の10分の10以内に相当する額を補助する制度。

【活用事例】

2018年に住田町に移住した、3名の20代女性が、狩猟免許(網、わな、猟銃)を取得。



他にもたくさんの施策があります。詳しくは…  
<http://www.town.sumita.iwate.jp/>

撮影

田頭 真理子(写真家)

【表紙・①～②】

■保育料無料

3歳児(年少クラス)以上の保育料が無料。

第2子は半額、第3子以降の保育料が無料。



■子育て支援医療費

産まれてから高校を卒業するまで、子どもの医療費が無料。

■住宅建築事業費補助金/住宅リフォーム事業費補助金  
工事費用の20%を上限として、以下の補助をする制度。

《住宅を新築される方》…基本額50万円に次の額を加算  
Uターンや移住、町営住宅や町内賃貸住宅にお住まいの方…上記に加え50万円加算

子育て世帯の方…上記に加え50万円加算

町内の施工業者に工事をご依頼された方…上記に加え100万円加算

町産材を使用された方…上記に加え50万円加算

《現在のお住まいや空き家をリフォームされる方》…下記  
の額の合計

Uターンや移住、町営住宅や町内賃貸住宅にお住まいの方…50万円加算

子育て世帯の方…50万円加算

町内の施工業者に工事をご依頼された方…30万円加算

町産材を使用された方…20万円加算



編集

住田町

一般社団法人SUMICA

有限会社コンカツ印刷

デザイン

一般社団法人SUMICA

有限会社コンカツ印刷





発行  
住田町

〒029-2396 岩手県気仙郡住田町世田米字川向88番地1